

令和元年度（第 141 期）事業報告書

（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）

公益社団法人東京地学協会

I. 事業方針

地学を奨励し、地学における専門分野の連携を図り、もって総合的な地学の進歩普及を推進する。

II. 事業内容

1. 公益事業

（1）普及・啓発事業（定款第 4 条第 1 号）

① 講演会の開催

以下の講演会等を実施した。

i) 春季講演会

日時：令和元年 6 月 15 日（土）15：00 ～ 17：45（参加者 22 名）

場所：弘済会館 4 階菊の間

演題：総合テーマ「楽しい地学の本をつくる」

「一般向けのサイエンスライティングとは何かーライン際を攻める世界 科学雑誌と古生物本を例に」

土屋 健（オフィス ジオパレント）

「パネルディスカッション」

土屋 健、芝原暁彦、長谷川直子、目代邦康（司会）

ii) 東京地学協会メダル受賞記念講演会

日時：令和元年 11 月 8 日（金）15：00 ～ 17：00（参加者 87 名）

場所：学士会館 2 階 202 号室

演題：「テフラ研究 これまでの知見と展望」

町田 洋（東京都立大学名誉教授）

iii) 秋季講演会

日時：令和元年 11 月 23 日（土）13：30 ～ 16：45（参加者 8 名）

場所：弘済会館 4 階蘭の間

演題：「サイエンスデザインー未来を思索する情報デザインのヒントー」

笹岡美穂（SASAMI-GEO-SCIENCE）

「同ワークショップ」

笹岡美穂（SASAMI-GEO-SCIENCE）

vi) 地学クラブ講演会

第 311 回 令和元年 8 月 29 日（木）13：00 ～ 16：00（参加者 34 名）

「地形図や主題図を楽しもう（地図講座 2019）」

宇根 寛（日本地図センター 客員研究員）

第 312 回 令和元年 8 月 30 日（金）13：00～ 16：00（参加者 38 名）

「地質図から日本列島を読み取ろう（地図講座 2019）」

高橋雅紀（産業技術総合研究所 上級主任研究員）

第 313 回 令和元年 12 月 19 日（金）15：00 ～ 17：00（参加者 35 名）

総合テーマ「最近の助成研究から」

「柏崎西方の円錐台地形が泥火山なのか判断する」蛭田明宏（明治大学）

「地域労働市場からみた国際山岳リゾートの持続性について」

小室 譲（筑波大学）

「八幡平地域の湿地の形成と発達を地形から考える」佐々木夏来（東京大学）

第 314 回 令和 2 年 1 月 27 日（月）13：00 ～ 14：30（参加者 22 名）

「地震の予知と社会：日本とイタリアの地震裁判から」瀬瀬一起（東京大学）

② 見学会の開催

以下の見学会を実施した。

i) 国内見学会

令和元年 10 月 20 日（日）1 日間（参加者 32 名）

「地形図や地質図を片手に都内の地形を観察しよう（地図講座 2019）」

案内者 藤平秀一郎（茨城県立結城第一高等学校 教諭）

③ 広報活動

i) 日本地球惑星科学連合大会（令和元年 5 月 26 日～5 月 30 日）において展示ブースを設け、協会の重点事業を紹介するポスター 7 枚と出版物を展示するとともにフライヤー 1 種及びリーフレット 2 種を配布した。

ii) 第 29 回国際地図学会議（令和元年 7 月 15 日～7 月 20 日）において展示ブースを設け、協会の重点事業を紹介するポスター 5 枚と出版物を展示するとともにフライヤー 1 種及びリーフレット 2 種を配布した。

iii) 会員有志や関連学協会を対象にメールニュース（No. 022～027）を発行した。

iv) 地学オリンピック日本委員会発行の冊子に中高生向け広告を掲載した。

v) 協会ウェブサイトにて、講演会、見学会、助成、表彰などの最新情報を掲載するとともにウェブ図書室の充実を図った。

④ 日本地学史の編纂

戦後の地学史のうち「研究の成果（個別分野の調査研究）」として地球物理学、地質学、応用地質学等について検討を進めた。

⑤ 図書室の整備

受け入れ雑誌管理方針に従い 45 種、167 冊の雑誌を受け入れ整理した。

また、東京地学協会が保有する過去の写真等をデジタル化し、協会ウェブサイト「ウェブ図書室」のページに公開した。

⑥ 専門家紹介（ジオエキスパート制度）

8 件の専門家紹介依頼があり、それぞれ適切に対応した。

i) 新橋の地中をコンピュータグラフィックで再現するためのデータや資料などの専門家

ii) 英ジャージー島の世界最大級の潮差への地形的関わりの専門家

iii) 国分寺崖線の崖上にある深大寺の微気候と湧水を説明できる専門家

iv) 都内ジオツアーの開催について詳しい専門家

v) ミャンマーの石灰岩の分布と仏塔を乗せる奇岩の成因の専門家

- vi) 経済企画庁鶴田泰明氏の同僚安斎俊男会員を知る専門家
- vii) 大アドリア大陸（プレート）の動きとヨーロッパアルプス形成の関係の専門家
- viii) 花崗岩とコロナウイルスとの関係の専門家

⑦ 関連団体との協力の推進

- i) 日本地球惑星科学連合、自然史学会連合及び地理学連携機構との連携を進めたほか、国際地理オリンピック、国際地学オリンピック、GIS Day in 東京 2019 等への協賛、後援または寄付を行った。
- ii) 第 29 回国際地図学会議組織委員会に、委員 1 名を派遣するとともに令和元年度組織委員会活動費として 100 万円を寄付した。

(2) 出版・頒布事業（定款第 4 条第 2 号）

① 地学雑誌の発行・頒布

会員の研究成果の発表を主目的とした通常号 3 冊と最新の話題や成果を集めた特集号 3 冊、全 1034 ページ（第 128 巻第 2 号から第 129 巻第 1 号まで）を発行した。

- i) 第 128 巻第 2 号 特集号：日本農業の存続・発展戦略－その地域的差異と基盤を探る－p.155-358 11 論文（特集号 Overview 及び巻頭言を含む。）及び地学ニュース（N13-N21）
- ii) 第 128 巻第 3 号 通常号 p.359-477 7 論文及び地学ニュース（N23-N25）
- iii) 第 128 巻第 4 号 特集号：冥王代の世界（Part II）－生命誕生場の準備－ p.479-679 10 論文（特集号 Overview 及び巻頭言を含む。）及び地学ニュース（N27-N53）
- iv) 第 128 巻第 5 号 特集号：地殻ダイナミクス（Part I）－主としてマクロな視点から－p.681-834 10 論文（特集号 Overview 及び巻頭言を含む。）及び地学ニュース（N55-N63）
- v) 第 128 巻第 6 号 通常号 p.835-958 7 論文及び地学ニュース（N65-N85）
- vi) 第 129 巻第 1 号 通常号 p.1-148 8 論文及び地学ニュース（N1-9）

また、本誌発行と同時に電子版をオンラインジャーナル（J-STAGE）として公開し、地学協会ホームページからもアクセスできるようにしている。

これらの企画・編集のための委員会を特集号に関するものを含め 10 回開催した。

② 地質図幅等の頒布

独立行政法人産業技術総合研究所との間で平成 27 年 3 月 23 日に結ばれた「地球科学図・地球科学データ集の有料頒布に関する業務」についての委託契約に基づき、同研究所地質調査総合センター発行の地球科学図及び地球科学データ集等 789 種の出版物を取り扱い対象とし、委託販売により頒布した。なお、平成 23 年 9 月からは海外からの購入希望にも応じている。令和元年度の頒布実績は、772 種、1,035 部、払出総額（産業技術総合研究所への納入額）にして約 172 万円であった。

上記契約は平成 32 年（令和 2 年）3 月 31 日までのものである。このため、令和 2 年 3 月 27 日国立研究開発法人産業技術総合研究所との間で令和 7 年 3 月 31 日までの新たな契約を締結した。

(3) 研究等助成・表彰事業（定款第 4 条第 3 号）

① 研究等助成

今年度は、調査・研究助成 8 件、国際研究集会助成 8 件の応募があり、以下の通り、

それぞれ 2 件、6 件を採択した。

1) 調査・研究助成

1. 後藤芳彦（室蘭工業大学）北海道洞爺カルデラの全噴火史とマグマエボリューション：160 万年前から現在まで
2. 佐藤興平（気象大学校）Sr 同位体と ^{14}C 年代から群馬県ー長野県東部地域の火山体崩壊堆積物の起源と年代を探る

2) 国際研究集会援助金

1. 大路樹生（名古屋大学博物館）国際シンポジウム「研究活動、資料収集、普及教育、アウトリーチを推進するツールとしての自然史博物館ネットワーク：アジアの事例研究」
2. 加藤照之（神奈川県温泉地学研究所）水蒸気噴火のメカニズムに関する国際ワークショップ
3. 大久保泰邦（宇宙システム開発利用推進機構）地質災害の研究とその調査方法の国際標準に向けた取り組み
4. 中田 高（シンポジウム実行委員会）北淡国際活断層シンポジウム 2020
5. 風早竜之介（気象庁）国際火山学及び地球内部科学協会火山ガス分科会 2020 年第 14 回火山学ワークショップ
6. 藁谷哲也（日本大学）地球表層プロセスとしての土砂移動現象の本質的理解と地形災害の予測に関する国際シンポジウム

② 普及啓発活動（出版）助成

1 件の応募があったが、審査の過程で申請が取り下げられた。

③表彰

町田 洋博士に東京地学協会メダルを授与した。

2. 収益事業（定款第 5 条第 1 号）

地学会館ビルの一部賃貸・会館の保全管理事業：引続き地学会館ビルの一部（地下、1 階の一部及び 3 階～7 階）を賃貸した。

会館の保全に関しては、建築基準法、消防法及び水道法に基づく点検並びに電気設備の点検を実施するとともに、東京地学協会使用部分について火災及び侵入を通年 24 時間監視した。なお、賃貸部分については、入居者が自ら監視している。

点検の結果等で明らかになった不良個所については、数回に分けて軽微な修理を行った。

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」がないので作成しない。